

『浮津お竹さん』

浮津お竹さん

浮津お竹さんは

八寸島田に緋がなこまいて

縦がすりの前掛けなんぞで

窪川へすつといた

浮津順慶さんは

一合の酒にてころりとまろで

地下をさわがすやら

かかさん泣かすやら

浮津東畑

さして登りて沖をみれば

おいとしやおなじみさんの

お舟の帆がみえる

※昭和47(1972)年旧大方町文化財指定。

黒潮町に伝わっている歌『浮津お竹さん』の紹介をします。

その昔、浮津にお竹さんという美しい娘さんがいました。

その頃お竹さんには意中の人がいましたが、親の決めた縁談がすすみ、いよいよ祝言というその夜、思い余ったお竹さんは、こっそり宴席を抜け出し、花嫁姿に前掛けで、窪川の恋人の元に逃げて行きました。

それは古い社会のしきたりに対する娘の精一杯の抵抗だったかも知れませんが、その頃の若い人々からはひそかな声援が送られていたのであろうこの歌は、昭和の初めごろの大方東部の宴席ではよく歌われていたといえます。



『節づくり歌』

節づくり歌

ハ―大漁大漁が三年続きや

サーヨイヨイ

嬢の湯巻はアリアヤ緋ぢりめん

ハ―つつじ椿は野山を照らす

サーヨイヨイ

沖の鰹はアリアヤ納屋照らす

ハ―伊予の姉さんがいだの虫よ

サーヨイヨイ

節が出来たらアリアヤ飛んで来い

ハ―鰹釣らせて早よ帰らせて

サーヨイヨイ

幸せ丸だとアリアヤ言わせたい

ハ―骨を抜くなら背骨から抜きやれ

サーヨイヨイ

横しからじやとアリアヤばらになる



この曲は、上川口、伊田方面で歌われてきた仕事歌です。

鰹節作りのため出稼ぎに行った人たちが土佐清水から持ち帰ったものだといわれています。

厳しい労働の合間に歌われたと思われるこの歌は、明るい歌詞、テンポのよい曲で、歌うことで自分を励まし、仲間を励ましたことでしょう。

○お問い合わせ

教育委員会文化振興係
(大方あかつき館内)

☎ 43-2110 (直通)